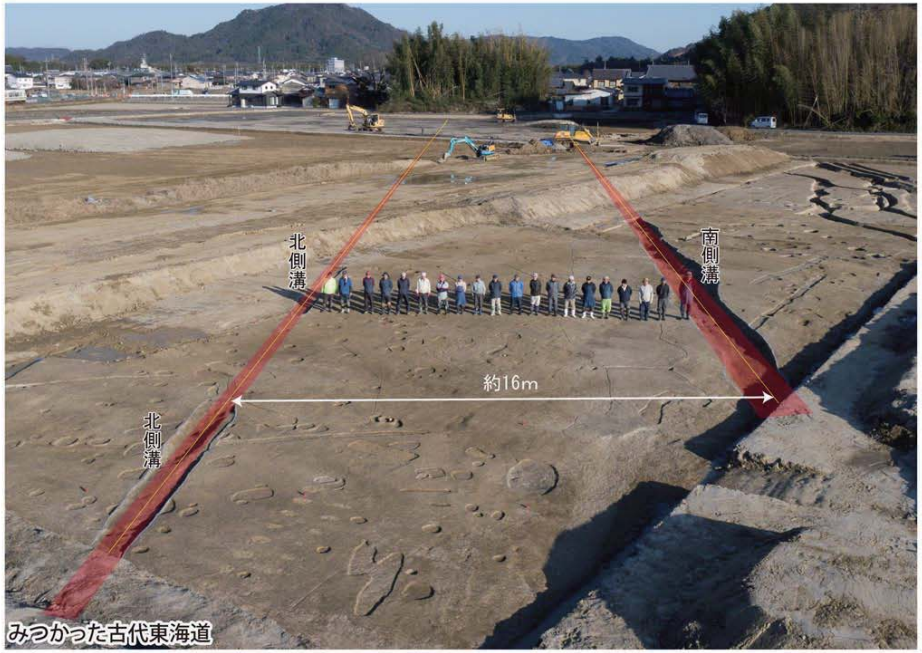

みつかった古代東海道

古代東海道に関わる遺構

今回みつかった古代東海道の遺構は、栗東市六地蔵集落（図1）から北へ180mの位置にあります。この付近には、過去の研究成果から古代東海道が存在すると考えられてきました。現在の東海道は六地蔵の集落に合わせて曲がりながら通りますが、古代東海道は六地蔵集落の両端を直線につないだ場所にあると考えられました（図1）。また、古代の道路は平地で道を造るときに、その両側に溝（側溝）を掘ることが多いので、発掘調査では東西方向の溝を注意して調べました。その結果、令和2年度の発掘調査で確認した側溝の延長線上から南北の側溝がみつかり、昨年度に記者発表した古代東海道の続きが明らかになりました。

今回確認した南北の側溝（上の写真）は、心々（北溝幅の中心から南溝幅の中心までの間隔）約16mあり、東西方向に並走していました。北側の側溝は、水田を造るときに削られたため深さ0.1m前後のくぼみが所々残るのみです。しかし、南側の側溝は幅1.2～2m、深さ0.3～0.5mが残っていました。また、南側の側溝は水が流れた痕跡が見つかったことから、水路として使用されたと考えられます。しかし、道路の側溝を兼ねて水路が造られたのか、道路が使われなくなってから側溝が水路として再利用されたのか、現段階では確定できません。今後の調査で確認したいと思います。

まとめ

動画はyoutubeでみることができます https://youtu.be/sFLFTVKrTEk

調査の結果、令和2年度の調査で確認した古代東海道の南北側溝の延長線上において同様の側溝がみつかり、予想された場所で道路が造られていたことを再び確認することができました。昨年度の調査成果から考えると、平安時代初頭ころには六地蔵集落の北方約180mの場所に古代東海道が存在したと言えるでしょう。また、南側の側溝が水路に使用された痕跡がみつかるなど、道路の側溝が他の目的に使われていたこともわかりました。

今回の調査によって古代東海道の位置を再確認し、平安時代初頭頃のあり方を考えるうえで、重要な情報を得ることができたと考えられます。

動画で
発掘調査が
見られます

高野遺跡発掘調査説明資料

令和4年（2022年）2月 ／公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

遺跡の概要と調査経緯

遺跡の概要　高野遺跡は栗東市高野に所在する遺跡で、野洲川の左岸に位置します。昭和57年（1982年）から断続的に調査が行われ、古墳時代（4～6世紀、約1700年前～約1500年前）の建物や遺物が多数見つかったことから、県内でも有数の大規模集落があったと考えられます。

平成30年度から令和2年度にわたる調査では、古墳時代の竪穴建物や奈良時代（8世紀初～8世紀末、約1300年前）・平安時代（8世紀末～12世紀末、約1200年前～900年前）の掘立柱建物、平安時代・鎌倉時代（12世紀末～14世紀前期、約900年前～700年前）の水路とともに、銅を溶かしたと考えられられる炉や、奈良時代から平安時代初頭に機能した古代東海道の両脇に掘られた溝（側溝）などがみつかりました。

調査の経緯　高野遺跡の範囲内において、滋賀県大津・南部農業農村振興事務所によりほ場整備工事が計画されました。それに先立ち、発掘調査を平成30年度から開始しており、令和3年度に終了を予定しています。

今年度の調査成果

調査の結果、古墳時代の竪穴建物や奈良・平安時代の掘立柱建物、奈良時代後期から平安時代初頭頃の東海道の側溝、平安時代から鎌倉時代頃に使われた水路など、多数の遺構や遺物が見つかりました。特に、昨年度確認した東海道の側溝の続きがみつかったことから、その経路がより明らかとなりました。

東海道とは

東海道は、7世紀後半頃に都と東国（三重県の一部、東海地方と山梨県、関東地方の太平洋岸地域）を結びつける道路として整備されました。はじめは大和国（奈良県）⇒伊賀国（三重県の一部）⇒東国へ通じる道でしたが、延暦3年（784年）に長岡京（京都府長岡京市）へ都が移ると、山城国（京都府南部）⇒近江国（滋賀県）⇒伊賀国へ通じる道に付け替えられました。

この道路は広い道幅を持ち、できるかぎり直線になるよう造られていました。しかし、都と東国の結びつきが弱くなると、道路の道幅が狭くなったり道路を付け替えるなどの改造が行われました。そして江戸時代には徳川幕府によってふたたび整備され、江戸と都を結ぶ街道として使用されました。

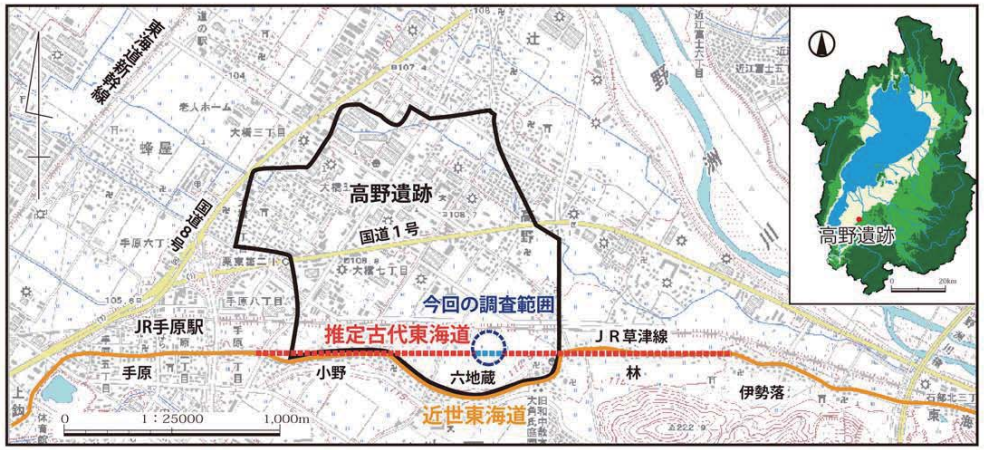

図1　高野遺跡の範囲（黒枠）と今回の調査範囲（青色破線）

この調査区では、古代東海道の両側にある側溝や古墳時代の竪穴建物、奈良時代・平安時代の掘立柱建物などがみつかりました。竪穴建物は、壁際にカマドを造ったもの（写真２）が多くみつかりました。掘立柱建物は、①北から西へ約 10 度傾いた角度で建つもの（掘立柱建物１～３）と、②ほぼ東西の方向に建つもの（掘立柱建物４）があります。①の建物は北側側溝を掘るときに壊されたことから、古代東海道が造られる以前に建てられたと考えられます。②の建物は、古代東海道と似た角度で建っていることから、道路に面するような建物かもしれません。

道路部分に残る多数の柱穴や溝跡は、古代東海道が造られる前や、無くなった後に掘られたと考えられます。

写真１　古代東海道南側溝
水が流れていた痕跡がみつかりました。

写真２　古墳時代後期の竪穴建物（竪穴建物 2）
※竪穴建物：地面を方形に掘り下げて床面をつくった建物

写真３　平安時代前期の掘立柱建物（掘立柱建物 4）
※掘立柱建物：地面を掘った穴の中に柱を建てた建物